

● 市政執行方針から ●

目標とする将来像の実現へ

市政推進の基本的な考え方

平成24年第1回名寄市議会定例会において、加藤市長が平成24年度の市政運営の方針について、小野教育長が教育行政運営の方針を述べました。（本誌には概要を掲載します）

市長として市政を担わせていただき、間もなく2年が経過しようとしています。この間、多くの市民の皆さまから様々なご意見をいただきながら「明るく元気なまちづくり」を積極的に進めてまいりました。

しかし、国の財政状況は、税収の減少や歳出の増加により財政赤字が拡大し、平成23年度末における公債残高は約667兆円と見込まれています。これは一般会計税収の約16年分に相当し、国民一人当たりになりますと約524万円の借金を背負うこととなります。また、ギリシャに端を発した欧州債務危機に揺れる中で、先進国で最悪の水準にある我が国の借金は、さらに膨張することが予想されます。

こうした中、東日本大震災の復興が本格的に始まりますが、その被害額は16兆円とも25兆円とも言われており、地方財政への影響やヨーロッパ経済の日本への影響など、先行き不透明な社会経済情勢により、本市の厳しい行財政運営に拍車がかかると考えられることから、地方財政に係る国などの情報収集に一層努め、適切に対応してまいります。

平成24年度からは総合計画後期計画がスタートしますが、身の丈に合った健全な財政運営の下に、後期計画に基づく施策、事業を着実に推進して、目標とする将来像の実現に努めてまいります。

さらに、施策の推進にあたっては、市民が主役のまちづくりを基本に、課題を先送りせず、しっかりと将来を見据えて全力で取り組んでまいりますので、一層のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。



● 教育行政執行方針から ●

豊かな人と文化を 育むまちづくり

名寄市教育委員会としては、平成24年度も「心豊かな人と文化を育むまちづくり」を柱に、市民の期待と信頼に応える教育行政の推進に努めてまいります。

まず、学校教育では、名寄市教育研究所に（仮称）教育改善プロジェクト委員会を組織し、校内研究の充実や指導方法の改善、地域の教育資源の活用などを図り、児童生徒の学力向上に努めます。また、生徒指導については、関係機関との連携を密にして、問題行動などの未然防止に努めてまいります。

名寄市街地区における小学校の適正配置計画については、「名寄市街地区公立学校統廃合検討委員会」の報告書をもとに、関係住民への説明会と基本設計の策定に努めてまいります。

次に、社会教育では、平成19年度からの名寄市社会教育中期計画が終了することから、新たに名寄市社会教育中期計画を策定します。

（仮称）市民ホール整備事業につきましては、「文化・芸術の拠点」「市民コミュニティの醸成の場」「賑わいづくりの場」となるよう各関係団体などの意見を伺いながら基本設計と実施設計を策定してまいります。

なよろ市立天文台については、プラネタリウムや天体観測などを理科教育の中に取り入れ、学校教育との連携を図るとともに、国内外の研究者との共同観測や各種イベントなどを通じて交流人口の拡大に努めます。

放課後子ども教室については、平成23年度の試行結果を受け、小学校四年生から中学校三年生までを対象に、地域の教育経験者などの指導により本格実施いたします。

市民と行政との協働

ここに、市政推進の基本的な考え方を申し上げます。

一点目は、「市民と行政との協働」についてです。

市民自治を基本に、市民参加と協働による市民主体のまちづくりを進めるため、名寄市自治基本条例に基づき、パブリック・コメントの推進とまちづくりに関する情報の積極的かつ速やかな提供による情報の共有を図り、市民と行政が互いの役割と責任を適切に分担して、暮らし続けたいと感じるまちづくりを目指してまいります。

行財政改革の推進

二点目は、「行財政改革の推進」についてです。

厳しい財政状況の下で、これまでも行政サービスの向上と効率的な行政を目指し、行財政改革を積極的に推進してきましたが、さらに質の高い行政サービスを提供するために、民間活力の導入・活用を進めてまいります。

また、まちづくりを堅実かつ効率的に進めるために、引き続き行財政改革を推進し、複雑・多様化する市民ニーズに的確に対応できる職員の育成と職責に応じたスキルアップを図るため、職員研修の充実に努めてまいります。

財産を活かしたまちづくり

三点目は、「財産を活かしたまちづくり」についてです。

美しく豊かな自然環境に恵まれ、寒暖の差が大きい名寄の風土で育まれる良質で安全安心な農産物、中でも、もち米やアスパラガス、馬鈴しょ、かぼちゃなどは、本市が全国に誇る名産品です。

また、地域特性を生かした特色ある施設では、ピヤシリスキー場、ピヤシリシャンツェ、サンピラー交流館カーリングホール、さらには国内最大級の望遠鏡を有する市立天文台、道北地方の広域医療を担う市立総合病院や保健・医療・福祉の人材を育む市立大学、道の駅など多くの財産があります。これらの財産を活用し、地域の活性化と交流人口の拡大を図るため、官民一体となり地域資源を磨いてまいります。

